

# もっと！ もち米プロジェクト

※  
65

毎月10日は  
「名寄もち米の日」

名寄市はもち米生産日本一のまちです。もち米を市民の皆さまの誇りとし、子どもたちが自慢できるふるさとづくりを進めるために「もっと！もち米プロジェクト」を実施しています。

問い合わせ・申し込み先  
名寄市食のモデル地域実行協議会  
(農務課農政係・風連庁舎1階)  
☎01655③2511(内線2312)  
ホームページ <http://nayoro-mochigome.com/>

1月に市ホームページや新聞などでご案内した「新春！名寄もち米クイズ★」。  
解答は次の通りでした。たくさんのご応募ありがとうございました！  
当選者の発表は、景品の発送をもって代えさせていただきます。



①

名寄はもち米の生産量・作付面積ともに日本何位でしょう？

**1位**

名寄市内でもち米を作っている水田の広さは札幌ドーム約600個分もあるんです！

②

名誉もち大使はもちつきをするとき完成までに何回もちをつく？

**100回**

最後の10回は「美味しくな～れ」と想いを込めて♪

③

冷めても硬くなりにくい特徴があり伊勢名物「赤福餅」にも使用されているもち米の品種は？

**はくちょうもち**

真っ白なお米が力強くはばたいて広く普及されることを願って、この名が付けられました。

COLUMN\*

VOL.44

## なよろっぽい家づくりの会



### 住まいの地震対策⑥

不意に地震は襲ってきます。万が一の大地震に備え、事前の準備を行うことはとても重要です。

#### 〈防災グッズセット〉

大地震が深夜に発生し地域全体が停電してしまうと、月明かり以外の明るさがないため、手探りで移動しかできなくなってしまいます。この状況で水害や土砂災害、火災などが発生すると避難することもできません。さらに問題となるのが就寝時に起きてしまうことです。大地震の揺れで目が覚めた際に明かりがないと、家財などが転倒・散乱している部屋の中で行動することができなくなります。枕元にスマートフォンなどを置いていても、地震の揺れで飛ばされてしまうことも考え、「懐中電灯・折りたたみスリッパ・軍手・笛」をポーチなどに入れて、ベッドの足にくくりつけたり布団や枕の下に敷いて眠ったりして、布団から手を伸ばす範囲にこれらの道具を設置しておくといいでしょう。

停電をしている場合は〈懐中電灯〉で明かりを点け、室内がもたれで散乱したり、ガラス片が飛び散っていたりしている場合は〈スリッパと軍手〉で手足を守り、また万が一、自宅が倒壊したり転倒した家具に押しつぶされたりして、閉じ込められてしまった場合は〈笛〉を吹いて助けを呼びます。

#### 〈ライフライン〉

ライフラインがストップしてしまったときの備蓄品も大切です。食品類は、調理しなくてもそのまま食べられるレトルト類やスナック類を主体にすると良いでしょう。一番必要なものは「水」です。一人あたり一日に必要な量は3Lといわれており、4人家族の場合、一週間に必要な水の量は84Lで2Lのペットボトル42本分です。備蓄品は、収納場所の確保がとても重要になります。備蓄量の管理は、使いながらストックする「ローリングストック」方式が良いでしょう。また、半年に一回は備蓄品のチェックをおすすめします。

#### 〈屋外への避難〉

例として、居間、玄関、アプローチ、車庫、道路までの動線をチェックポイントとして、素早く外へ逃げられるよう避難ルートの確保が大切です。さらに、冬期間の場合は、雪処理の問題もあります。隣家や近所の助けも必要になるかもしれません。そのためには、日頃から良好な近所づきあいを心掛け、トラブルが起きないように配慮することも必要です。

■問い合わせ なよろっぽい家づくりの会事務局  
(NPO法人なよろ観光まちづくり協会内)  
☎01654⑨6711